みんなの広場

はっらつ ところ 野老っ子

愛、真理が表現できる女優になりたい

須貝　真己子（まいこ）さん
（並木在住）

須貝真己子さんは、生まれも育ちも所沢で、みどりが多く自然がたくさん残っている所沢が大好きという新人の女優さんです。

「小学6年生のときに『ローマの休日』を鑑賞して、オードリー・ヘップバーンの笑顔に魅了され、人に感動を与えられる女優の世界に憧れたんです」と、子どものころから役者志望だったようです。

高校卒業後は、劇団青年座養成所に進み、現在は、フリーで舞台の仕事を中心に活躍しています。このたび、映画『石井のおとうさんありがとう』に初出演しました。

この映画は、『はだしのゲン』などの作品で有名な山田火砂子監督により制作され、日本で初めて岡山市に孤児院を創設し、3千人の孤児を救済した「児童福祉の父」と呼ばれた石井十次の一生を描いた作品です。須貝さんは、十次の長女である友子役を演じています。

「十次役の松平健さんや妻品子役の永作博美さんなどの素晴らしい役者さんと仕事ができたことも感激ですが、この作品を通して愛を持って人々に伝える石井十次の生き方に触れることができたことが、自分にとって大きなプラスになりました」と念願の映画初出演の想いを、熱く語ってくれました。

役作りのために、児童養護施設を訪れ、ものに恵まれているこの時代に、保護者からの虐待や養育拒否などの理由で施設に入所している子どもたちがたくさんいることを知り、石井十次の功績を多くの人に知ってもらいたいという気持ちになったそうです。

この映画は、8月30日(月)に市民文化センターミューズ・中ホールでも上映されます。

今は、芝居のけいこやアルバイトにと下積みの毎日ですが、人の気持ちを思いやり、愛、真理が表現できる女優になりたいという大きな夢があります。

芸能界という厳しい世界ですが、「自分の与えられている環境に感謝し、あきらめず、逃げ出さず試練を乗り越えて、目標に向かって歩んでいきたい」という言葉がとても印象的でした。

彼女が主役で演ずる映画や芝居を観ることができる日が、とても楽しみです。

▲梅雨が明けました。プールの授業でもいい待ちに待った夏、「1日中なあ」。
7月13日㈫／中富小学校

映画撮影シーンの1コマ
写真提供：現代プロダクション

TOKOROZAWA ものしりウォーキング 52

三ヶ島・仁平（にへい）地蔵

木々に囲まれたお地蔵様

新田義貞の鎌倉攻めやその一族が起こした合戦にまつわる伝説は市内に数多く残されています。三ヶ島地区にも、金井原古戦場や籏（はた）の梅などの伝説が残されていますが、仁平地蔵もその一つです。

このお地蔵様は、三ヶ島中学校の東の三ヶ島四丁目にあり、北野とその境付近の畑の中に、ケヤキや銀杏（いちょう）や山桜などの木々に囲まれてポツンと立っています。かつては塚であったといいます。また、この辺の地名も、昔から「仁平地蔵」と呼ばれていました。お地蔵様のある場所は六坪ほどの小さな敷地で、個人の所有地のため立ち入ることはできませんが、公道からその姿を眺めることができます。

お地蔵様は貞享（じょうきょう）3年（1686）に村田仁兵衛という人によって建てられました。村田仁兵衛は、三ヶ島村の村野家の先祖で、言い伝えによれば、その昔この辺りが合戦場であったことからその供養のために建てられたということです。

ところで、このお地蔵様の隣に小祠（しょうし）に納められた自然石の碑があります。

明治30年（1897）に建てられたもので、碑にはお地蔵様のかたちが彫られています。昭和15年に地主さんが祠をつくり、最初は貞享3年のお地蔵様と一緒に納めたのですが、あまり窮屈に見えたため、後にお地蔵様だけ外に出したということです。

碑が建てられた明治30年は、8月に赤痢が大流行し、そのときこのお地蔵様にご利益があるというので、大勢の人々がお参りに訪れました。その模様は「毎日参詣の人々山をなして絶えたることなし」と当時の資料にあります。

ところが、お地蔵様に傷をつける者や持ち出して投棄する不逞（ふてい）の輩があらわれたため、一時お地蔵様を地主さんの家に避難させることになりました。明治30年の碑は、お地蔵様の身代わりに建てられたものでしょう。

市内には子育て地蔵や六地蔵などさまざまなお地蔵様がありー、それらはそれぞれに由来や伝説をもっています。それらのお地蔵様は、庶民信仰の一つとして地域の人々と深いかかわりをもち、大切にされてきたものです。

仁平地蔵（左）と自然石の碑

少なくつり ふれあい館『エコロ』不用品ガイド

●**譲ります**　▷スチームアイロン▷A型ベビーカー▷電気マッサージ器▷押し入れ用タンス▷ワープロ▷ガーデンテーブルといす▷電子ピアノ

●**求めます**　▷フットバス▷キーボード▷編み機▷ビデオデッキ▷ピアノ▷レコード▷パソコンデスク▷ステレオ

◎登録翌月の初旬に内容を館内に展示しています。このほかにも多数登録されていますので、ぜひご利用ください。

受付方法　リサイクルふれあい館へお問い合わせください。

休館日　月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎2994-5374・FAX2994-1118）

▲市民体育館開館記念等の冠大会として行われた日本VSブルガリア戦、4,000人もの観客が興奮の渦へ。
6月26日(土)／所沢市民体育館

街かどズームイン

▶皆さんからの「街かどズームイン」採用者には事前に連絡します▶「誰ではテーマにそった投稿を募集▶はが以内で▶文章は添削あり▶掲載者には▶次回のテーマは「夏休み」▶子どもみが待ち遠しかったですね▶1日中遊後回しに▶長いような短いようなあの忘れられません▶皆さんの夏休みの思ください▶締め切りは8月6日(金)必着・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒木1-1-1　所沢市役所秘書広報課「みん情報を募集▶もエッセイ」きに300字記念品を進呈のころは夏休んで、宿題は至福のときはい出をお寄せ▶住所・氏名359-8501・並なの広場」係

▲つばき子どもまつりに特設釣りぼりが登場。釣れるのは魚ではなく、あめ玉です。「早くなめた～い」。
7月10日(土)／つばき児童館

とことこ町内会めぐり

【山口地区・堀之内町内会】
～いつまでも住み続けたい街を目指して～

元気にみこしをかつぐ子どもたち

堀之内町内会は、西武狭山線下山口駅を最寄り駅とする位置にあり、大正14年に親交会として発足しました。当時の世帯数は20数世帯であったと聞いています。その後、昭和30年に現在の堀之内町内会と改名しました。

昭和45年ごろからは転入が相次ぎ、町内のいたるところには商店が建ち並び、今では、700世帯を数えるほどになっています。

町内会では、会員相互の親睦（しんぼく）とより良い生活環境への向上を図ることを目的に、春の歩け歩け大会をはじめとして、夏は八雲神社祭礼、秋は文化祭、山口地区連合体育祭、年末は八雲神社御焚（おたき）き上げ、町内歳末特別警戒等の事業を行っています。

特に八雲神社祭礼の歴史は古く、今日でも伝統的な行事として、子どもみこし、お囃子、民謡踊り、和太鼓等が盛大に行われ、会員のみならず近隣の方々も訪れます。また、今年度は、新たにグランドゴルフ大会と町内自主防災訓練を計画しています。

しかし、当町内においても少子高齢化は着実に進み、会員相互のコミュニケーションは希薄になりつつあります。

このため、忘れられようとしている行事を残し、新たな事業を掘り起こし、今後も会員の多くの方々が「気軽に楽しく参加できる堀之内町内会」を目指して諸事業の創意工夫に、努めていきたいと考えています。

――次回のテーマは「夏休み」です――

誰でもエッセイ

テーマ　まつり

天王様のお祭り

南永井・井上　みどり

梅雨晴れの夕方、くちなしの香り漂う中、車いすの父の背を押していたら「もうすぐ天王様だな」と言う。

私が小学生のころ、男の子たちが家から家へ「ワッショイ」「ワッショイ」とみこしをかついで練り歩いたのです。

4人姉妹の私たちは、母が作ってくれた浴衣を着て三尺をしめてお祭り気分を味わったものです。

畑の仕事はお休み。母が家にいることはうれしいことでした。そして農作業もひとつの節目だったようです。父も自分を振り返るひとつの指標のようです。私も小さいころの夏の思い出が頭の中を駆け巡りました。

そして小さくなった父の背を押しながらゆったりと時間が流れました。

祭りと父の思い出

山口・長瀬　弘子

父は、お祭りが大好きで、お囃子（はやし）が聞こえてくると、もう、うかれて、ハゲ頭に鉢巻きをし、浴衣を着て、わらじを履いて出かけます。後ろから声をかけても、うわの空でした。

鉄の輪がいくつかついているシャン・ジャンと鳴る棒を持って先頭を歩く。これがうれしいのでしょう。ふだん、あまり笑わない父がニコニコしていました。

そのあとにビーチャラを聞きながら飲むお酒も楽しみの一つなのです。祭りのあとは、いつも酔って帰りました。

子どもたちもその影響で、祭りには鼻を白く塗り、みこしはかつぐし、山車も最後までひっぱり、とても楽しかったのを覚えています。

今でもお祭りで、みこしにあうとワクワクして、立ち止まってしまいます。

お祭りとお酒が大好きな父も40年前に肝臓がんで逝ってしまいました。

けやき祭り

三ヶ島・瀧上　英子

私が入居している三ヶ島地区のケアハウス「けやき」では、毎年9月はじめの土曜の夜「けやき祭り」が行われます。

駐車場も開放して大型トラックの荷台を見事にしつらえた舞台では、民謡・詩吟・歌等が披露され、やきとり、おにぎり等の屋台が並び、ビールやジュースが飲み放題です。

神様とは無縁のお祭りですが、入居者の家族などが参加して、大変にぎやかな人出です。

涼しい夜風の中、盆踊りも始まり、最後は見事な打ち上げ花火で終わります。

日中の残暑を忘れる楽しいお祭りのひとときです。

すてきな祭りに誘われて

東所沢・中原　星子

息子（中学2年生）の通っている中学校には寮があり、浜松から来ているY君が、息子を地元の「浜北飛竜祭り」に誘ってくださった。

9時くらいに行くと、もう出店が開いており、そのあと町内会やグループでたこをあげる。キャンプファイヤーより大きな火の周りを、はっぴを着た男女が回ったり叫んだりして、太鼓や踊りもたくさんあり、かっこよかったらしい。

そのあとは花火もあり、息子は13歳の生涯でベストと感動していた。

こんなすてきな祭りに誘ってくれたY君一家に心から感謝している。一度、所沢にも来て欲しいものだ。ちなみに息子のおみやげは、うなぎパイだった。

祭りが大好き

荒幡・内野　好美

お囃子の音色が風に乗り、2基のみこしが2つに分かれ、町内を廻る。子どもたちのかけ声が、高い青空に響きわたる。

真っ赤な顔に汗を流し、一生懸命みこしをかつぐ子どもたちに、エールを送る。

夜は西武園の大きな打ち上げ花火が祭りに色を添え、1人、2人と盆踊りの輪に入り、しなやかな手つきでつややかに踊る小さな輪が、やがて大きな輪へと…

今年もあと1か月後にやってくる夏祭りを楽しみにしている。

十四軒（じゅうしけん）の祭り

下富・細渕　春夫

子どものころ、天王様の祭りが楽しみだった。夏休みに入ると近くの公民館で祭りの準備をする。大きな灯ろうに紙を貼り、霧吹きで色を付け、家内安全などと字を書き、そこに竹ひごについた紅白の薄紙で、できた花を飾る。

夕方になると、各家々の入り口や玄関には、ろうそくの灯が映えた灯ろうが立てられ、太鼓の音が聞こえた。小学生は小さいみこし、中学生は大きいみこしをかついだ。夜店も出てにぎやかだった。

翌日は、先輩たちが獅子頭（ししがしら）を付け、お礼を家々に配り全戸を廻る。そのあとに子どもたちのみこしが続き、庭で「ワッショイ」「ワッショイ」。

やがて祭りも終わり、小学生から順に中学生へとご褒美（お金）がいただける。それがなによりもうれしかった。

私のふるさと、十四軒の祭りの思い出である。